

安心して医療を受けられる まちをつくるために

●病院医師の減少が顕著

湖北地域の医療は、長浜赤十字病院・セフィロト病院・市立長浜病院・長浜市立湖北病院が地域の基幹病院の役割を担っています。また、診療所の医師はかかりつけ医機能を担っています。

湖北地域の医師数は減少傾向にあり、特に病院における医師数の減少は顕著で、医師全体数が少ないため、医師一人にかかる負担が増大しています。

誰もが安心して医療を受けられるようにするためには、わたしたち一人ひとりが受診のしかたを見直す必要があります。必要時には病院や専門医を紹介してもらえます。

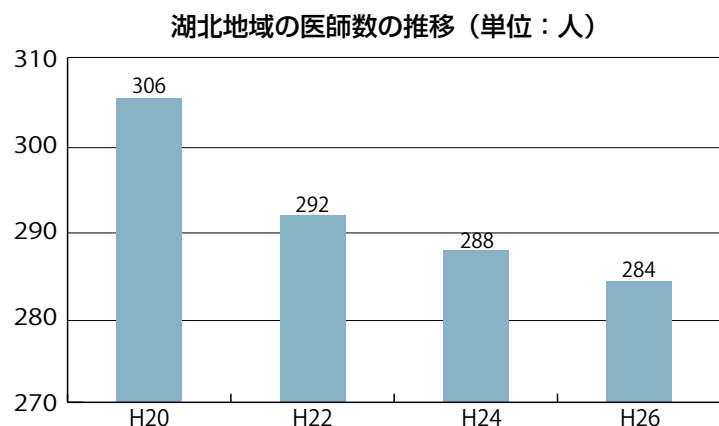
●かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医とは、日頃から家族ぐるみで健康や病気のことを気軽に相談でき、日常的な診療や健康管理をしてくれる身近なお医者さんのことです。必要な時には病院や専門医を紹介してもらえます。

●長浜米原休日急患診療所を利用しましょう

救急診療は、休日や夜間に急激に病状が悪化した場合などに利用するものです。緊急性のない患者さんの受診は、医師に過重な負担がかかります。

休日や軽症の場合は、長浜米原休日急患診療所（日曜・祝日・年末年始の9時～18時）を利用しましょう。



▲医師・歯科医師・薬剤師調査（厚生労働省）より

未来を創る子どもたち

伝統文化を学び、地域に生きる

西中学校では、総合的な学習の取組として、伝統文化学習を行っています。

1年生は、「曳山文化教室」として、曳山祭の期間中に出番を待つ各山を見学したり、曳山博物館での学習や、地元の人のご厚意で祭の体験などを行います。曳山の歴史



▲西中茶屋

を学ぶとともに、地域の人々から伝統を受け継ぐ素晴らしさを体験しています。

2、3年生の生徒は「箏、尺八、義太夫、囃子、剣舞・歌謡舞、茶道、花道、手芸、書道、日本歌曲、語り部」といった日本の伝統芸術・芸能についてそれぞれ生徒が選択し、体験学習をしています。いずれの伝統文化学習も、地元で活躍している文化継承者から指導いただいています。囃子・茶道体験の生徒は、曳山祭の期間に長浜八幡宮前で「西中茶屋」を開いて学習の成果を発表し、今年は約330人も来場がありました。



▲囃子の演奏

めざす子ども像

- 一、夢や目標をもち、それに向かって努力する子
- 一、思いやりのある心のやさしい子
- 一、ふるさとを愛し、誇りをもって生きる子

長浜子どものちがい

～わたしたちはちがいます～

- 一、元気にあいさつをします
- 一、名前を呼ばれたら「はい」と返事をします
- 一、「ありがとう」「ごめんなさい」をすなおに言います
- 一、困っている人がいたら言葉をかけます
- 一、人の話をしっかり聞きます

長浜子育て憲章

～おとなが実践します～

- 一、子どもに誠実に生きる姿を見せます
- 一、見守るまなざし、叱る勇気を大事にします
- 一、ルールとマナーを教え、奉仕の心を育みます
- 一、自然や人々に感謝の心でふれあう子どもを育てます
- 一、長浜に誇りをもち、地域に貢献する子どもを育てます

も学習を続け、長浜に誇りを持ち、地域に貢献する子どもの育成を図っています。

6月10日（土）9時～12時に長浜文芸会館で伝統文化発表会を開催します。市民の皆様のご来場をお待ちしています。

市長コラム 83

至誠通天

藤井 勇治

※至誠通天 誠を尽くせば天が味方してくれること



各団体の総会が一斉開催

新緑の美しい季節です。この時期の緑の色は特に清々しく、とても気持ちよくさわやかな気分にくれます。

さて、このシーズンは各種の団体やグループ等の組織が一斉に「総会」を開催し、新年度の活動方針などを審議し、新たなスタートをきります。

私は長浜市長として、沢山の団体から来賓や主催者として参加依頼を受け、各総会に出席します。

その一つ「長浜市連合自治会定期総会」が長浜文芸会館ホールで開催され、来賓として出席しました。市内425の自治会から、その会長が参加されます。自治会の活動は地域の健康や福祉を充実させる一番大切なコミュニケーションです。そして市政を推進する重要なパートナーでもあります。会長を先頭に役員の皆さんにはご苦勞をおかけしますが、自治活動のリーダーとして活発な活動を中心



▲滋賀県国道連絡会の様子

から期待しています。

また、「滋賀県国道連絡会」が市内のホテルで開催されました。この会は、県下の19の市長・町長で構成され、私が会長に就任しています。この会の目的は県内の国道等の整備や道路事業の振興・普及、道路愛護心の普及を図ることです。県内の一般国道の整備率は54.7%であり、全国平均の67.8%と比べるとまだまだ低い状況です。道路は市民の皆さんの「暮らしそのもの」であり、安全で快適な道路環境を確保し、滋賀の経済活動や防災に必要不可欠なものです。今後も道路整備が推進されるよう力強い活動をして参ります。他にも様々な会合に参加し、常に「現場」に立っています。気楽にお誘いください。

市立病院通信 74

お元気ですか

このコーナーでは、病院事業のスタッフの紹介を兼ねて、病院施設や体制のほか、生活に役立つ“健康豆知識”などを紹介します。



泌尿器科医師
横川 竜生



呼吸器外科医師
田久保 康隆

皆さんは、「緩和ケア」という言葉を聞かれたとき、どのようなことをイメージされますか。

緩和ケアは一般的に考えられている終末期のケアだけではなく、**がん**と診断されたときから始まり、療養場所を問わず病気に伴う患者やご家族の苦痛を和らげ、**暮らしや生き方を支えていくケア**です。

近年は、がんを治すことと同じように、患者がどのように生活していくかという「療養の質」が大切と考えられるようになってきました。

市立長浜病院緩和ケアチームでは、今年1月から緩和ケアチームの身体症状担当医師を2人体制とし、さらなる緩和ケアの推

進に努めています。病気に伴う苦痛には、身体や気持ちの辛さだけでなく、生活をしていくうえで自分や大切な人のことを考える時の「気がかり」も含まれています。〃気持ちや誰かに伝えたい時から、よりよい治療が始まります〃また、がん相談支援センターでは、社会保険労務士による個別相談会、「がん患者さんの就労相談」を6月23日（金）に開催します。（予約制・先着順）相談会では、患者の暮らしを支える「仕事」と「療養生活」に関する様々な悩みについて、無料で相談をお受けします。秘密は厳守いたしますので、安心してご相談ください。



市立長浜病院
（6812300）（代表）